

## 公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	早期 CKD 糖尿病患者における CPP の動態と慢性炎症マーカーとの関連性
所 属 機 関	自治医科大学附属さいたま医療センター 内分泌代謝科
氏 名	山田 穂高
<p>【背景】 食事により摂取されたリンは、リン酸カルシウム結晶のコロイド粒子である Calciprotein particle (CPP) として血中に存在し、通常骨に運搬される。CKD ではリン利尿障害により血中 CPP 濃度が上昇することが知られており、CPP が慢性炎症を引き起こす可能性が指摘されているが、2型糖尿病患者での CPP の検討は殆どない。</p> <p>【方法】 入院している2型糖尿病患者を対象とし、血清・血漿を採取し、4時間畜尿を実施した。血清を持ちいて CPP を測定した。慢性炎症マーカーである血中 IL-1<math>\beta</math>、TNF-<math>\alpha</math> を測定し、患者背景、血糖変動指標及び炎症マーカー、MBD 関連因子との関連を統計学的に検討した。</p> <p>【結果】 15名の2型糖尿病患者をエントリーした。全体の背景は、年齢 64<math>\pm</math>8歳、男性4名、BMI 26.5<math>\pm</math>3.3 kg/m<sup>2</sup>、糖尿病罹病期間 11<math>\pm</math>6.2年、HbA1c 10.3<math>\pm</math>2.2%、eGFR 83<math>\pm</math>24 mL/min/1.73 m<sup>2</sup>、intact FGF23 43.3<math>\pm</math>18.2 ng/mL、CPP 0.040 [0.010–0.037] g/Lであった。eGFR と FGF23、CPP は負の相関を示した。また CPP と Mg にも負の相関を認めた。CPP と血中 IL-1<math>\beta</math>、TNF<math>\alpha</math> 濃度とは有意な相関関係は見られなかった。CPP は糖尿病罹病期間、尿中蛋白量とも相関せず、24時間持続グルコースモニターから算出した、平均グルコース濃度、血糖変動指標(CV、SD)とも相関を認めなかった。</p> <p>【結語】 eGFR が保持されている糖尿病合併 CKD 患者で、CPP は通常殆ど検出されないレベルから上昇しており、Mg が負の相関を示すことが明らかとなった。</p>	